

令和6年度大学教育再生戦略推進費
「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」
計画調書（案）

								【タイプI】
大学名						整理番号		
プログラム名		【和文】						
		【英文】						
事業者 (大学の設置者)		ふりがな				所属・職名		
		氏名						
申請者 (大学の学長)		ふりがな						
		氏名						
事業責任者		ふりがな				所属・職名		
		氏名						
連携してプログラムを実施する機関(国内連携大学等)								
国内連携大学等				国内連携大学等				
1				3				
2				4				
本プログラム経費 (単位:千円) ※千円未満は切り捨て								
年度(令和)		6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	合計
プログラム規模								
内訳	補助金申請額							
	大学負担額							
タイプIとタイプIIの両方に応募する場合は、どちらの採択を優先して希望するか記載								

※1. 文部科学省や他省庁が実施する他の補助金は「大学負担額」に計上しないこと。

※2. 国立大学における運営費交付金、公立大学における運営費交付金等、私立大学の私立大学経常費補助金等は「大学負担額」に計上しないこと。

本プログラム事務総括者部課の連絡先							
部課名					所在地	〒	
責任者	ふりがな				所属・職名		
	氏名						
担当者	ふりがな				所属・職名		
	氏名						
	電話番号				緊急連絡先		
	Email(主)				Email(副)		

※原則として、当該機関事務局の担当部課とし、責任者は課長相当職、担当者は係長相当職とします。

Email(主)については、できる限り係や課などで共有できるグループメールとし、必ず(副)にも別のアドレスを記入してください。

(大学名:)(申請区分:タイプI)

① プログラムの概念図【1ページ】 ※プログラムの全体像が分かる概念図を作成してください。

(大学名：) (申請区分：タイプI)

② 工程表【1ページ】

※全体計画を把握するため、6年間の工程表を作成してください。



審査項目① 大学の理念等を踏まえた本事業の位置付け及び大学の国際化に向けた実施基盤

以下の（１）～（３）を記入してください。

（１）大学全体の改革における位置付け 【１ページ】

- 現在までの大学全体の改革に関する取組状況、現在抱えている課題及び定量的な現状分析、それらを踏まえた今後の改革構想を記入してください。その際、その改革構想に占める本事業計画の位置付けを明確にしてください。

(2) 大学の国際化の実績及び今後の計画 【2ページ以内】

- 申請プログラム計画の基礎となる大学の国際化の取組状況、現在抱えている課題及び定量的な現状分析、それらを踏まえた今後の国際化の発展・改善計画について記入してください。
- 「スーパーグローバル大学創出支援事業」の採択大学においては、必須指標の未達成項目があれば、その取組状況を記載してください。(申請プログラム計画と関連するものを3つ程度記載すること。) また、今後の改善計画を記載してください。

(SGU 指標の取組状況)

(SGU 指標の改善計画)

(3) プログラム実現に向けた体制構築等 【2ページ以内】

- プログラムの実現に向けた学内の組織的な実施体制整備(学長を中心とした体制の整備、FD・SDの実施体制の整備、学内への周知徹底を含む)、客観的データに基づいた事業計画の改善や見直しを行うPDCAサイクルの構築等について記入してください。

審査項目② プログラム計画の具体的な内容

- (1)～(4)について、達成目標、これまでの教育改革の取組及び今後の方針に照らして、妥当性・実現性のある計画を記入してください。その際、以下の内容の実現に向けた計画を明確にしてください。
 - ・ 育成する人物像の設定
 - ・ 多文化共修
 - ・ 日本人学生の送り出し、外国人留学生の受入れのための取組

(1) 育成する人物像の設定【200字程度】

- ◆ 以下の必須となる取組を含めて記入してください。

【必須となる取組】

- プログラムで育成する人物像を、大学等の強み・特色を活かし、各取組の内容との整合性にも留意しつつ具体的に設定すること。

(2—1) 多文化共修 【3ページ以内】

◆ 以下の必須となる取組を含めて記入してください。

なお、期待される取組（加点事項）がある場合は、該当部分を青字で記入してください。

【必須となる取組】

- 特定の学部・研究科等に限定せず、全ての学部学生、並びに全てないし一部の修士学生を対象としたカリキュラムに多文化共修科目を必修科目として取り入れること。この必修科目は、英語を中心とする外国語で実施すること。ただし、地域との連携による多文化共修のためなど、必要があれば、その一部を日本語を含む他言語で実施することは可能とする。
その他、正課外科目として、大学等が主体的に関与し責任を有する多様な多文化共修活動等の開発・実施も可能とする。
- 多文化共修科目は、地方公共団体や企業等と連携し、これらの機関が所在ないし活動する地域が抱える課題をテーマとするものを含むこと。特に博士前期課程においては、より社会課題の解決策の提案や社会実装に資する取組（政策提言や企業、社会実装活動等）を含むこと。
- 多文化共修に関わる教員を育成し、カリキュラムや教育環境の国際通用性を向上させるため、例えば、多文化共修科目の授業設計や地域における課題設定、教材選択等についてのファカルティ・ディベロップメント（FD）を行うこと。
- 留学経験のある日本人学生や外国人留学生、多文化共修科目等の既修得学生等をティーチング・アシスタント（TA）、スチューデント・アシスタント（SA）などとして積極的に育成・採用・活用すること。それにより、これらの学生が主体となった自律的・持続的多文化共修のための体制を整備すること。

【期待される取組（加点事項）】

- 多文化共修を通じて海外留学への関心を掘り起こし、日本人学生を積極的に海外留学に送り出すための環境を整備すること。
- 多文化共修教育に必要な新たな外国人教員を雇用すること。

【これまでの取組状況】

【計画内容】

(2—2) 多文化共修科目 【2ページ以内】

- ◆ 「審査項目④(3)多文化共修科目一覧表」に記載する科目のうち、特色のある正課の科目5科目及び正課外の取組3件までについて、具体的アクティビティ、連携先がある場合は関わり方、到達目標などを記載してください。なお、正課の科目のうち1科目以上は、必修の科目について記載してください。

正課の科目

1	【科目名 (科目区分)】
	【概要】
2	【科目名 (科目区分)】
	【概要】
3	【科目名 (科目区分)】
	【概要】
4	【科目名 (科目区分)】
	【概要】
5	【科目名 (科目区分)】
	【概要】

正課外の実組	
1	【取組名（科目区分）】
	【概要】
2	【取組名（科目区分）】
	【概要】
3	【取組名（科目区分）】
	【概要】

(3) 日本人学生の送り出し、外国人留学生の受入れのための取組（優秀な外国人留学生の受入れのための取組） 【3ページ以内】

◆ 以下の必須となる取組を含めて記入してください。

なお、期待される取組（加点事項）がある場合は、該当部分を青字で記入してください。

【必須となる取組】

- 地方公共団体や地域の企業、NPO・NGO 等との連携により、外国人留学生の受入れ・定着支援を推進すること。
- 中間評価までに「留学生就職促進教育プログラム認定制度」の認定を受けること。

【期待される取組（加点事項）】

- 学位等のデジタル学修歴証明や、多文化共修以外の科目を含むマイクロクレデンシャルの発行・活用のための検討・導入を図ること。なお、これらの検討・導入においては、将来的な自大学等の学位等の国際通用性を向上させる観点から、全学的な取組とすることや学習管理システム(LMS)との連携・接続等を図ることが望ましい。
- 例えば、外国人学生を対象としたアドバンス・プレースメント科目の開発・実施、新たな留学生の獲得やプログラム運営費・奨学金の充実等につながるアルムナイの活性化、(多文化共修科目以外の科目も含む)英語のみで卒業・修了できるコースの新設・充実や当該コースを卒業・修了した留学生の就職先の新規開拓等の外国人留学生の早期・組織的な獲得のための取組等を推進すること。

【これまでの取組状況】

【計画内容】

(4) (該当あれば) その他 【1 ページ以内】

審査項目③ 成果目標の設定

○ 現状分析に基づいて、実施時期別、定量的な数値目標を明確に設定してください。

なお、「連携してプログラムを実施する機関」がある場合は、その機関毎に指標を作成してください。

1) 正課科目 多文化共修科目数・参加学生数【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

科目数	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
単位認定を伴う授業総数	科目	科目	科目
うち単位認定を伴う 多文化共修科目数	科目	科目	科目
参加人数			
単位認定を伴う多文化共修 科目参加学生実数 (A)	人	人	人
うち日本人学生数 (B)	人	人	人
うち外国人学生数 (C)	人	人	人
学生総数			
日本人学生数 (D)			
外国人学生数 (E)	人	人	人
合計 (F:D+E)	%	%	%
割合			
全学生数に占める、多文化共 修科目参加学生割合 (A/F)	%	%	%

※「正課科目」とは、単位認定を伴う多文化共修についての教育をいう。

【現状分析】

【計画内容】

2) 多文化共修の担当教員や TA・SA の数【表を除いて 1 ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度 5 月 1 日の数値を記入

担当教員数	令和 5 年度 (実績値)	令和 8 年度 (目標値)	令和 11 年度 (目標値)
教員総数 (A)	人	人	人
うち多文化共修の 担当教員数 (B)	人	人	人
割合 : (B/A)	%	%	%

年間の総数 (のべ) の数値を記入

TA・SA 数	令和 5 年度 (実績値)	令和 8 年度 (目標値)	令和 11 年度 (目標値)
TA・SA 総数 (C)	人	人	人
うち多文化共修に関連する TA・SA 数 (D)	人	人	人

(大学名 :) (申請区分 : タイプ I)

【現状分析】

【計画内容】

3) 多文化共修に関連して、連携する地方公共団体や企業等の数【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
連携する地方公共団体の数	件	件	件
連携する企業等の数	件	件	件
連携するNGO・NPO等その他の 団体	件	件	件

【現状分析】

【計画内容】

4) 日本人学生の海外留学人数・割合【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度	
			(目標値)	令和5年度 比
全学生数(A)	人	人	人	
うち日本人学生の 海外留学人数(B)	人	人	人	%
うち多文化共修科目に関 連して海外留学する日本 人学生数(C)	人	人	人	
割合(B/A)	%	%	%	
割合(C/A)	%	%	%	

※ 要件：事業計画最終年度的人数が、令和5年度比200%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

【現状分析】

【計画内容】

5) 外国人留学生数・割合【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度	
			(目標値)	令和5年度 比
全学生数 (A)	人	人	人	
うち外国人留学生数 (B)	人	人	人	%
割合 (B/A)	%	%	%	

※ 要件：事業計画最終年度の人数が、令和5年度比125%以上もしくは全学生数の3割以上に設定すること

【現状分析】

【計画内容】

6) 外国人留学生の国内及び地域への就職人数・割合【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度通年の数値を記入

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
外国人留学生数(A)	人	人	人
(A)のうち進学者数(B)	人	人	人
(A)のうち就職希望者数 (C)	人	人	人
(C)のうち国内就職者数 (D)	人	人	人
割合(D/C)	%	%	%

※ 要件：事業計画最終年度の進学者数を除く国内での就職希望者の6割以上を占めること

以下は該当がある場合は記載すること

連携する特定の地域 ()

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
(D)のうち特定地域への 就職者数 (E)	人	人	人
割合(E/D)	%	%	%

【現状分析】

【計画内容】

7) (該当あれば) その他 任意指標【表を除いて1ページ以内】

【実績及び目標設定】

	令和5年度 (実績値)	令和8年度 (目標値)	令和11年度 (目標値)
(指標1)			
(指標2)			

【現状分析】

【計画内容】

審査項目④ プログラム計画の適切性

以下の(1)～(3)を記入してください。その際、以下の内容の実現に向けた計画を明確にしてください。

＜大学の経営自律化のための改革＞

- ・ 特定の財源(国からの基盤的経費等を含む)に依存しない、安定的で多様な財源確保のための戦略的経営マネジメント改革を推進すること。
- ・ プログラムの自走化を見据えて、国内外の企業・団体等からの寄附や教育研究経費の配分、人員派遣の受入れなどによるプログラムの運営経費や参加学生の奨学金等の充実を図ること(具体的な支援先や金額、時期等が明記されることが望ましい。)

(1) 年度別の計画 **【2ページ以内】**

○ 年度ごとのプログラム計画について具体的に記入してください。

【令和6年度】

【令和7年度】

【令和8年度】

【令和9年度】

【令和10年度】

【令和11年度】

(2) プログラム計画の継続性 【2 ページ以内】

【継続性を担保するための学内外の体制や仕組みについて】

【継続性を担保するための資金計画について】

(3) 多文化共修科目一覧表 【正課科目】

学年	科目2	名称	種別	単位	科目区分1	科目区分2	科目区分3	履修年次					履修年次
								履修年次	履修年次				
									履修年次	履修年次	履修年次	履修年次	
1								履修年次	履修年次	履修年次	履修年次	履修年次	履修年次
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
...													

専修科3年目までに履修予定の科目を記入

(3) 多文化共修科目一覧表 【正課外科目】

	課程	年次	期間	取組名	参加目標人数				目標		取組の概要	
					令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	外		内
1												
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												

事業開始3年日までに実施予定の取組を記入

審査項目⑤ プログラム成果の先進性と普及 【1ページ】

その際、以下の内容の実現に向けた計画を明確にしてください。

- ・ プログラム成果は、費用対効果を勘案して、自大学だけでなく我が国の高等教育全体にとっても先進性を有するものであるか、また、先駆的なモデルとなり、取組を波及させる手法及び計画が見込まれるものであるかについて分かるように記入してください。

審査項目⑥ 経費の事業内容との関係性・整合性・妥当性 【1ページ】

- ・ 他の公的資金との重複はないか。
- ・ 申請経費の内容は明確かつ妥当であり、計画上必要不可欠なものか。
- ・ 過大な積算となっていないか。